

# 中日両言語における「性向語彙」の一考察

## —「人付き合いの良い人、親しみやすい人」を中心に—

施 暉・ 欒 竹民

### A Comparative Study of Disposition Related Vocabulary in Chinese and Japanese

Shi Hui, Luan Zhumin

This study is a comparative examination of the phrase ‘good at communication’ in Chinese and Japanese, and has two significant findings.

Firstly, the results indicate that the Chinese language may have a greater amount of vocabulary and vocabulary production than Japanese, as well as a more varied vocabulary.

Secondly, although “good at communication” would seem a positive evaluation, the data in this study shows that it is also associated with a considerable number of negative evaluative phrases in both Chinese and Japanese, most notably in Chinese. This may indicate both the negation principle within both Chinese and Japanese cultures, and that being “good at communication” may not always play an important role in interpersonal relations in these two cultures.

- |                                                                   |                                                         |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| <p>I. はじめに</p> <p>II. 中国語の「善于交際、好接触の人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」について</p> | <p>III. 日本語の「人付き合いの良い人、親しみやすい人」について</p> <p>IV. 終わりに</p> |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|

#### I. はじめに

「物知り、怠け者、利口」等のような性向語彙はどの言語にも存在している。言うまでもなく中日両言語とて例外ではなく、その語彙数は大量であるのみならず、それぞれ多様多彩に富んだ特徴も具わっている<sup>1</sup>。意味と評価という特質を具する性向語彙を通してその国、民族及び社会の深層に潜んでいる価値観、人生観、道徳観や行動規範等が反映される。斯様な性格を有する性向語彙は文化言語の普遍性と特殊性を解明するために行う対照研究の好対象となる。

グローバル化の浸透と深化に伴って、人々は否応なしに激しい競争の時代を迎えて、人間関係の如何かを一層重要視するようになった。人間関係が悪ければ、競争には支障を来すため、人付き合いの可否は人の総合的能力を量る重要な尺度の一つとなる。とりわけ、人間関係ネットワークが中国の至る所に張り巡らされており、義理人情、面子を重んじる意識が社会の隅々まで浸透している。従って、斯様な中国では人付き合いができるか否かは人々の日常生活

活や仕事などの全般に関わるのであると言ってよいかと考えられる。対して、日本においても国際的競争力を高め、国際発言力を強化するべく、学校教育の中でコミュニケーション能力をアップするための実践的な教育が導入、提唱されている。その狙いは若者が積極的に海外に出て、国際場での発言力を身に付けるための基本能力付けにある。周知のように、中国では人情を重視し、人間関係の構築に腐心するため、「人付き合いのよい人」が求められると言え、一方、日本では「口下手」とか「人付き合いが苦手」とかで<sup>2</sup>、「お宅男、お宅女」、「ひきこもり」が沢山生まれている。日本人は対人恐怖症人口が世界一でたいていの人にその傾向があるとされる。また、「ひきこもり」は集団を第一とする日本の社会病理から生まれた国民病であるというのは、正鶴を射た指摘である<sup>3</sup>。故に、日本社会にとっては「人付き合いのよい人」がなおさら求められる存在である。

次項では、中日両国人の対人関係及び意識について

ての実態を明らかにするために、中日両国語の「人付き合いの良い人、親しみやすい人」という第99意味項目（調査した意味項目が111項目からなる）における性向語彙を取り上げて対人評価のプラス、マイナス及び中性という評価視点<sup>4</sup>から分析、比較を行うことによって、中日両国人の共通点と相違点を考察する。

尚、中日両言語における「人付き合いの良い人、親しみやすい人」の性向語彙についての分析と比較に先立って、本研究のために行ったアンケート調査についての概略を説明しておくこととする。アンケート調査は2003年7月から2010年10月にかけて408名の中日両国人（社会人それぞれ104名、年齢層：30代、40代、50代、60代以上、男女各13名、大学生それぞれ100名、男女各50名）を対象に、日常的に使用する（共通語の）対人評価語彙につい

て、アンケート用紙に「性向語彙」を記入させる形式で行った。更に追加調査として表記や評価度合い等を巡って面接調査も実施した。調査票は室山が日本方言調査のために構築した106意味項目<sup>5</sup>を踏まえながら、中日両国文化等の特徴を表出できる5意味項目を加えて合計111意味項目から構成されたものである。また、アンケート調査票については拙稿の「日中両言語における「性向語彙」についての対照研究 - 「働きもの」を中心に -」等<sup>6</sup>を参照されたい。

## Ⅱ. 中国語の「善于交際、好接触の人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」について

まず、中国語の「善于交際、好接触の人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」に対しての評価語彙を取り上げて考究してみよう。

### 中国語の「善于交際、好接触の人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」

（異なり語数128語、延べ語数326語）

表1（プラス）異なり語数68語

能説会道11 口上手	喫得開7 顔が広い	人品好6 人柄いい	会交際5 人付き合いの上手	能説会道的人4 口上手な人	外向4 外向	人縁好3 人気者
活躍3 活発	阿慶嫂3 （原題京劇の登場人物）口達者でやり手	高尚の人3 高尚な人	活潑2 明るい	外交家2 外交官	百搭2 オールマイティー	会説話2 話し上手
外向的2	健談者2 能弁者	高尚2	会処事1 世渡り上手	場面人1 社交家	好交1 交際を好む	健談1 能弁
社会活動家1	喜歡交朋友1 友達作りがすきだ	善于交往的人1 付き合い方の上手な人	有頭腦的人1 頭のいい人	社交能力強1 社交能力が高い	能説会道者1 口達者な人	好交朋友的人1 友達作りを好む人
立身処世1 立身出世	満面春風1 春風満面	処事大亨1 処世に長ける人	放得開1 闊達	關係網広1 人間関係ネットワークが広い	会打交道1 人付き合いの上手い	会做人1 処世の上手い
活躍的1 活発な人	活躍因子1 活動的な人	口才好1 口達者	可親1 親しみやすい	靈活1 柔軟だ	開朗1 明るい	能言善弁1 能言達弁
強人1 やり手	社会性1 社交性	圓融1 円満融通	喫香1 人気がある	外交官1	喜歡交友1 友達作りが得意	朋友多1 友達が多い
白求恩1 （中国抗日戦争を協力したカナダ人医師のノーマン・ベチューン）人徳者	活雷鋒1 （雷鋒は自己犠牲的な精神で人民に奉仕する人の代名詞）今雷鋒	品德高1 品格が高い	有道德1 道德がある	正人君子1 聖人君子	賢人1	善交際1 交際が上手
社交才子1 社交の上手な人材	談判專家1 交渉のプロ	風雲人物1 風雲児	外向型的人1 外向型の人	善于外交的人1 社交に長ける人	社交強的人1 社交の上手な人	活動広的人1 活動範囲の広い人
知識淵博1 ものしり	全球通1 （中国通信のブランド GSM、Global System for Mobile communications）交際の達人	好交往1 人付き合いがすきだ	開心果1 ビスタチオ（人を楽しくさせる人）	老少通喫1 誰とでも付き合える		

表2 (中性) 異なり語数 31 語

円滑 13 角が取れている	自来熟 6 なれなれしい人	見面熟 3 人懐っこい人	会拉関係の人 3 人間関係作りの上手い人	玲瓏人 2 八方美人	玩得開 1 顔が利く	見面熟 1 なれなれしい人
手腕高 1 辣腕	交際人 1 社交家	活人 1 円滑な人	遇人為友 1 すぐ友達を作る人	大胆 1 大胆	公関師 1 広報や接待等の担当者 (PROfficers)	和誰都混得開 1 人脈が広い
臉大 1 知り合いが多い	能侃 1 よくしゃべる	有手腕 1 腕が立つ	社交名媛 1 社交の上手なお嬢さん	圓 1 丸い	交際明星 1 交際名人	善于拉関係 1 人間関係作りの上手い
公関先生 1 男性の広報や接待等の担当者	和人 1 人付き合い	百搭 1 交友関係が幅広い	外場人 1 社交場の人	喫八方 1 豊富な人脈をもつ	会搞外交 1 外交の上手い	愛説話 1 おしゃべり
喫百方 1 幅広い人脈をもつ	開放 1 開放的	路子広 1 人脈が広い				

表3 (マイナス) 異なり語数 29 語

交際花 70 社交界の花、ホステス	八面玲瓏 36 八方美人	左右逢源 11 上手く立ち回る	八面玲瓏の人 5 八方美人的な人	甜言蜜語 3 甘言	長袖善舞 3 人脈等を頼りにほしいままにする	滑頭 3 狡猾な人
処事円滑の人 3 小賢しい人	吹牛拍馬 2 ほら吹きで胡麻播り	円滑世故 2 世故で狡猾だ	八面玲瓏者 2 八方美人	公関小姐 2 風俗業等で働く女性	吹牛水平很高 1 よくほら吹きする	無所不用其極 1 あらゆる手を尽くして人付き合いする、人付き合いし過ぎる
四方遊説 1 四方遊説する	処事円滑 1 ずる賢い	溜須拍馬 1 おべっか	能混 1 人擦れする	請客送礼 1 (不純な目的で) 接待や贈り物をする	愛玩手段 1 手練手管	包打听 1 人のうわさを嗅ぎ回る
到处乱交 1 相手を問わずに交際する	話匣子 1 甘言でしゃべりまくる人	臉皮厚 1 鉄面皮	両面派 1 裏表のある人	巧舌如簧 1 言葉巧みにまくし立てる	小滑頭 1 小賢しい奴	油腔滑調 1 誠意がなく口巧者
没有實際才能 1 口先だけで実力ない						

以上の表から分かるように、中国語の「善于交際、好接触の人(人付き合いの良い人、親しみやすい人)」という意味項目には異なり語数が 128 語見られるが、プラス評価語が 68 語で、全異なり語数の 53.1% を占める。一方、マイナス評価語が 29 語で、全異なり語数の 22.7% に達している。斯様な結果はプラス評価に属する第 99「善于交際、好接触の人(人付き合いの良い人、親しみやすい人)」意味項目には正負という両面性が明らかに存していることを物語る。換言すれば、適切に社交、交際を行えば、「人品好(人柄いい)、能説会道(口上手)」と高く評価され、反対に、過度な交際や節度のない社交をすれば、「到处乱交(相手を問わずに交際する)、臉皮厚(鉄面皮)、両面派(裏表のある人)」等と貶されて、明確な「過剰価値」が浮き彫りになっている。

次に、「善于交際、好接触の人(人付き合いの良い人、親しみやすい人)」またはその行為に対して、

中国人がどのように評価しているか、また、中国人の理想的な「善于交際、好接触の人(人付き合いの良い人、親しみやすい人)」の人物像はどのようなものであるか等の点について考察を行う。まず、プラスという視点からそのプラス評価語について分類、分析を加えてみたい。

- ①話し上手、やり手、知識のある(人)：能説会道(口上手)、能説会道的人(口上手な人)、阿慶嫂(原題京劇の登場人物、口達者でやり手)、外交家(外交官)、会説話(話し上手)、健談者(能弁者)、健談(能弁)、口才好(口達者)、能言善弁(能言達弁)、強人(やり手)、知識淵博(ものしり)、外交官、風雲人物(風雲児)、談判專家(交渉のプロ)
- ②明るく品格高尚である(人)：人品好(人柄いい)、高尚の人(高尚な人)、高尚、品德高(品格が高い)、活潑(明るい)、有道德(道徳がある)、

正人君子（聖人君子）、賢人、白求恩（中国抗日戦争に協力したカナダ人医師のノーマン・ベチューン、人徳者）、活雷鋒（雷鋒は自己犠牲的な精神で人民に奉仕する人の代名詞、今雷鋒）、開朗（明るい）

- ③ 人気があって人付き合いに長ける（人）：喫得開（顔が広い）、会交際（人付き合いの上手）、外向（外向）、人縁好（人気者）、百搭（オールマイティー）、外向的、好交（交際を好む）、喜歡交朋友（友達作りがすきだ）、善于交往的人（付き合い方の上手な人）、社交能力強（社交能力が高い）、好交朋友的人（友達作りを好む人）、会打交道（人付き合いの上手い）、関係網広（顔が広い）、可親（親しみやすい）、喜歡交友（友達作りを好む）、朋友多（友達が多い）、善交際（交際が上手）、社交才子（社交の上手な人材）、外向型の人（外向型の人）、善于外交的人（社交に長ける人）、社交強的人（社交の上手な人）、全球通（中国通信のブランド GSM、Global System for Mobile communications、交際の達人）、好交往（人付き合いがすきだ）、老少通喫（誰とでも付き合える）、社会性（社交性）
- ④ 世才があって、活躍的である（人）：活躍（活発）、满面春風（春風满面）、処事大亨（処世に長ける人）、立身処世（立身出世）、放得開（闊達）、会做人（処世の上手い）、活躍的（活発な人）、活躍因子（活動的な人）、靈活（柔軟だ）、活動広的人（活動範囲の広い人）、有頭腦的人（頭のいい人）

以上の分類から明らかになるように、中国人にとっては「善于交際、好接触的人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」は人と人の交流が上手くできるばかりか、明るく高尚な品格の持ち主でなければならない。そうして初めて適度で且つ目的の純粹なる人付き合いを可能ならしめることができる。さもなければ、「左右逢源（上手く立ち回る）、長袖善舞（人脈等を頼りにほしのままにする）」といったような人と見做される。甚だしきことは、「吹牛拍馬（ほら吹きで胡麻播り）、溜須拍馬（おべっか）、両面派（裏表のある人）」等のような人とまで見下されてしまう。「善于交際、好接触的人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」についてのプラス評価視点は主として「話が上手く、能弁」である。

すなわち、話術があって、口達者というようなコミュニケーション能力は「善于交際、好接触的人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」になるのには欠かせない前提の条件である。以上の分類を通じて、中国人の目から見る「善于交際、好接触的人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」の具体的な特徴は次のように抽象化できるかと思う。

話の上手+品格高尚+人間関係の器用+処世に長ける

つまり、中国人の求めたり憧れたりする理想的な「善于交際、好接触的人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」という人物像は、「阿慶嫂（原題京劇の登場人物、口達者でやり手）」のような、「能弁で機智に富んだやり手」であると共に、「白求恩、活雷鋒」のような、近づきやすく私利を貪らない人徳者でもある。さらに、性格が明るく、活発で仕事能力もある。一方、下記したマイナス評価人物像は人々を戒めたり、論じたりするというような役割を果たすことになる。斯様な正負という人物像は両々あいまっての社会的な補完効果を發揮して、「善于交際、好接触的人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」という性向をバランスよく保つことにもつながる。

それのみならず、「善于交際、好接触的人（人付き合いの良い人、親しみやすい人）」という性向行為に対してその評価語としては多層的な意味構造を呈し、語義の程度もまちまちであるという特徴を見せている。例えば、「会交際（人付き合いの上手）」→「社交能力強（社交能力が高い）」→「老少通喫（誰とでも付き合える）」→「百搭（オールマイティー）」；「喜歡交友（友達作りを好む）」→「朋友多（友達が多い）」→「関係網広（人間関係ネットワークが広い）」→「全球通（中国通信のブランド GSM、Global System for Mobile communications、極めて交際の達人である）」等のように、意味は弱から強へと展開されている。「百搭」という語はもともと貶し言葉であるが、今日の中国では、「百搭」という行為が流行っている。「搭」とは、ネットショッピング、スーパー、レストラン、タクシーなどで知り合ひまたは赤の他人でもよいが、二人以上で買い物、飲食及び乗り合いを一緒にしたり、組み合わせたりすると、安く便利となったりすることである。このような「搭」は特に若者の間で人気上昇中である。例えば、「搭喫（一緒に食事する）」、「搭穿（服装を

組み合わせて買う)」、「搭用(一緒に使う)」、「搭住(二人で組んで泊まる)」、「搭遊(一緒に観光する)」等という表現が当今の中国社会においてよく耳にするナウなことであるとも言えよう。もともとはマイナス的な意味の言葉であったが、いまはプラス的な意味に変わって流行語として幅広く愛用されるようになった。斯様な「搭」を通して、人々は暮らしが便利で且つスピーディーになったり、社交、交友の幅と機会も増えたりすることになる。つまり、これは他でもなく性向語彙には時代による新旧差という性質もあることを反映している。この点は「雰囲気イケメン」などといった新語の示すように日本語にも顕在化している。

続いて、「善于交際、好接触的人(人付き合いの良い人、親しみやすい人)」またはその行為に対してのマイナス評価視点について検討してみる。その特徴は以下のように記述される。

- ①度を過ぎた交際(人)：交際花(社交界の花、ホステス)、到处乱交(相手を問わずに交際する)、四方遊説(四方遊説する)、公関小姐(風俗業等で働く女性)、無所不用其極(あらゆる手を尽くして人付き合いする、人付き合いし過ぎる)
- ②狡猾く丸い(人)：八面玲瓏(八方美人)、左右逢源(上手く立ち回る)、八面玲瓏的人(八方美人的な人)、滑頭(狡猾な人)、処事円滑的人(小賢しい人)、円滑世故(世故で狡猾だ)、八面玲瓏者(八方美人)、能混(人擦れする)、小滑頭(小賢しい奴)
- ③甘言で手段を弄する(人)：甜言蜜語(甘言)、愛玩手段(手練手管)、包打听(人のうわさを嗅ぎ回る)、吹牛水平很高(よくほら吹きする)、話匣子(甘言でしゃべりまくる人)、両面派(裏表のある人)、巧舌如簧(言葉巧みにまくし立てる)、油腔滑調(誠意がなく口巧者)、長袖善舞(人脈等を頼りにほしのままにする)
- ④媚びて機嫌を取る(人)：吹牛拍馬(ほら吹きで胡麻播り)、溜須拍馬(おべっか)、請客送礼((不純な目的で)接待や贈り物をする)、臉皮厚(鉄面皮)、沒有實際才能(口先だけで実力ない)

以上の分類から明らかになるように、中国人の「善于交際、好接触的人(人付き合いの良い人、親

しみやすい人)」についてのマイナス評価視点の特徴は「過度の交際、目的不純の交際」及び「狡猾でずる賢い」等の点である。つまり、人付き合いの度合いを超えて、「負性原理」が働くことになる。また、「交際花(社交界の花、ホステス)、公関小姐(風俗業等で働く女性)」等のような女性のマイナスの評価語は男性の中性的評価語「正人君子(聖人君子)、公関先生(広報担当の男性)」等と比べて、中国語には女性に対する差別意識と性別上の評価差異が明確に存している。さらに注目すべきことは「交際花(社交界の花、ホステス)」という女性のマイナスの評価語の多用と高い使用頻度であり、異なり語数として最高で、延べ語数が70語に達している。「交際花(社交界の花、ホステス)」は二十世紀二、三十年代に上海の上流社会における社交界において若さ、美貌及び巧妙な交際術を武器にセレブな男性、プレイボーイを虜にして華やかな生活を享受する女性であったが、1949年に新中国の建国と共に、「交際花」は長年にわたって姿を消して、言葉としても廃語となった。しかし、市場経済の導入に従って、所謂「美女経済、美女外交、美女文化」が蔓延ようになって、「交際花」は再び表舞台に躍り出て、今日の社交界において注目的となっている。「交際花」という対人評価語の生い立ちと浮沈は中国社会において依然として女性差別という封建的な観念が残っていることを物語る。一方、下記の記した日本語には女性差別するような性向語彙が見られなく、中国語のような性別差も確認できなかった。

周知のように、中華料理は世界の三大料理の一つであるが、中国人は「民以食为天(民は食を以て天と為す)」を尊ぶため、中国人ほど食に対する情熱、追求、執拗さを持っている民族は恐らくないであろうと言えよう。「愛喫(食べることが好き)、重喫(食べることを重んじる)、講喫(食べることに拘る)、好喫(食べることを好む)」というように、食文化は中国文化を構成する最も代表的な要素の一つである。そういうわけで、飲食に関する言葉を以て対人評価に用いる中国人の性向語彙は沢山見出され、中国語の性向語彙を構成する一つの特徴とも言えよう。例えば、「善于交際、好接触的人(人付き合いの良い人、親しみやすい人)」にも「喫香(人気がある)、喫得開(顔が広い)、老少通喫(誰とでも付き合える)、喫八方(豊富な人脈をもつ)、喫百方(幅広い人脈をもつ)」等のような表現があって、中国語の特有

の対人評価語と言ってよからう。然れども、斯様な性向語彙は「喫」の持っている「ものを咀嚼して飲み込む」という本来の意味を失って、「人気があり、顔が広い」こと、またはそのような人を喩えることに転用されている。性向語彙には、時代の変化や年齢差と対応する形で見立ての対象が転換されて、メタファーの変化や担う効果の多様性、程度性が強化される表現もある。例えば、「全球通」は中国通信大手のブランド GSM (Global System for Mobile communications) として幅広く利用され、知名度も高いというネット社会において生まれた新語である。若者がこれを以て交際の達人に喩えて、その交際の広さが如実に表されている。つまり、性向語彙には文化の沈殿としての一面もあれば、時と共に変わる一面もある。

続いて、次項では日本語における「人付き合いの良い人、親しみやすい人」について対人関係の特徴を考える。

### Ⅲ. 日本語の「人付き合いの良い人、親しみやすい人」について

家族主義、宗族（血縁関係）意識の強い中国人に対して、日本人は集団を重要視し、強い集団意識を具えているという特質の持ち主である。従って、日本人は集団の結束、安定及び調和を維持するべく、団体構成メンバーの相互交流、意思疎通及び協力は不可欠である。その故に、日本人は自己分析におい

ていつも誰とでもそつなく付き合えるということを自己の長所として自慢げに紹介する。この点については日本青少年研究所（2007年）が行った『高校生意欲に関する調査-日本・アメリカ・中国・韓国の比較-』の結果から示唆されている。例えば、「自分の特徴」という四か国の共通項目についてのアンケートにおいて日本と韓国の高校生は「誰とでも仲良くできる」との回答率が高かったが、一方、米中の高校生は「人を世話にすることが好き」と答える人が多かった。このような集団意識が強いため、日常生活や仕事において如何にして人と上手く付き合えるかは日本人にとって肝要な関心事となると同時に、それぞれの集団構成員を悩ましたり、困らしたりするところでもある。これが上掲した四か国高校生の勉強プレッシャーに関するアンケート調査に対して日本人のみで友達やクラスメートとの付き合いにおいて不安とプレッシャーを強く感じていると答えた所以である。対して、その他の三国の高校生はいずれも斯様な回答を得ることなく、学習の成績に関するプレッシャーという答えに集中している。従って集団意識の濃厚である日本社会では当然なことながら第99意味項目「人付き合いの良い人、親しみやすい人」は評価、肯定に値すべきであろうと推定されるが果たしてどうであろうか、以下日本語における「人付き合いの良い人、親しみやすい人」という意味項目の性向語彙を分析することによって検証すると同時に中国人との違いも肉薄してみたい。

#### 日本語の「人付き合いの良い人、親しみやすい人」

(異なり語数 121 語、延べ語数 202 語)

表 4 (プラス) 異なり語数 109 語

社交的 20	フレンドリー 7	人気者 7	人なつこい 6	明るい 6	いい人 4	好人物 4
社交家 4	優しい人 4	話しやすい人 3	気さく 3	心が広い人 3	顔が広い 3	好感の持てる人 3
優しい 3	交際上手 2	朗らか 2	親切 2	友好的 2	オープン 2	良い人 2
明るい人 2	社交的な人 2	人あたりが良い 2	愛嬌 (の) がある人 2	取っつきやすい 2	人付き合いの良い人 2	心優しく信頼できる人 1
あたりがいい 1	顔が広い人 1	にくめない人 1	ノリのいい人 1	気安い 1	気安い人 1	人間がまるい 1
愛想よし 1	交際上手な人 1	人がいい 1	心安い 1	円満 1	活発 1	気さくな人 1

人当たりのよい人 1	乗りがいい人 1	雰囲気イケメン 1	明るく優しい人 1	物事に率先してす る人 1	付き合いやすい人 1	のりの良い人 1
社交性がある 1	ユーモラスな人 1	反応してくれる 1	感じのいい人 1	話がしやすい 1	人の考えを重んじ る人 1	親近感のある人 1
いい奴 1	快活 1	楽しい人 1	外交的 1	人徳者 1	協調性 1	友達 1
人当たりが良い 1	人情深い人 1	あたりの良い人 1	付き合いがいい 1	話の合う人 1	気が置けない人 1	にこやかな感じ 1
人の話を聞く人 1	人柄がいい人 1	交友範囲が広い人 1	一緒に楽しい人 1	誰にでも優しい 1	誰にでも話しかけ る人 1	誰とでも付き合え る人 1
自由闊達 1	ええ人 1	親しみ深い 1	愛嬌がよい 1	情が厚い 1	人格者 1	柔らかい 1
良心的な人 1	絡みやすい人 1	絡みやすい 1	ざっくばらん 1	心の広い人 1	友好的な人 1	協調性のある 1
丸い人 1	義理堅い 1	フランク 1	大らか 1	根が明るい 1	好き 1	外向的 1
話しやすい 1	温厚な人 1	顔の広い人 1	面白い人 1	明朗 1	親友 1	陽気 1
気を使わなくてい い人 1	気遣いができる人 1	育ちの良い人 1	誰とでも仲良く出来る人 1			

表 5 (中性) 異なり語数 6 語

いやと言えない人 1	誰とでも会話をし、助言できる 1	世話人 1
よくしゃべる人 1	遠慮のない人 1	子犬のような人 1

表 6 (マイナス) 異なり語数 6 語

八方美人 4	外見上得をする 1	昔気質 1
八方美人の人 1	お調子者 1	少し薄っぺらな感じをする人 1

日本語には異なり語数として 121 語があり、マイナスと中性の評価語がそれぞれ 6 語ずつ見られ、異なり語数の 4.95% を占めているが、プラス評価語は 109 語に上り、マイナスと中性の語数を遥かに上回り、異なり語数の 90.1% に達しており中国語の 53.1% との懸隔が大きく開けている。この結果は「人付き合いの良い人」に対して日本人が中国人のような明白な正負褒貶の評価という両面性と異なり、顕著なプラス評価の傾向を見せている。換言すれば、中国人は「人付き合いの良い人」についての評価において「過剰価値」が働き、プラス評価からマイナス評価へと傾斜しており、「負性原理」<sup>8</sup>を通して人々に人付き合いが必要以上にせず、過不足するように戒めようとする。一方、日本人は積極的に評価したり、明らかに称えたりするというプラス指向で

人々に「人付き合いの良い人」になるように喚起、激励し、人間関係の更なる構築、改善を図ろうとする。そのみならず、集団意識の強い日本社会では集団構成員の結束力、協調性を維持するための欠かせない「人付き合いの良い人」及び行為が重要視されるばかりか、幅広く評価されていることも物語って、我々の推測と一致しているのである。日本人の「人付き合いの良い人、親しみやすい人」に対しての積極的な評価という社会の広範的な認識があって、「人付き合いの下手な人」に対して評価が厳しく、貶される対象、容認し難い存在となるという社会的な傾向性が醸成されている。かかる文化的な背景のもとで職場にせよ学校にせよ団体や組織等が存在しているところでは仲間外れによる集団苛めが往々として起こる。それによっての痛ましい殺人や自死に

まで発展してしまう。従って、日本社会においては組織のメンバーが一番の心配事が「仲間外れ」と言っても過言ではなからう。例えば、日本人は職場や学校において集団の中で孤立することを恐れる心理、学校や職場で一人で食事をするはその人には友人、仲間がいないということとなる。友人がいなければ魅力がないからである。そのため、一人で食事すれば、周囲は自分を魅力のない、価値のない人間と思われる不安、恐怖から「ランチメイト症候群（学校や職場で一緒に食事をする相手（ランチメイト）がいないことに一種の恐怖を覚えるというもの）」<sup>9</sup>、便所飯、便所弁当、トイレ弁当という悲惨な社会現象が生じた<sup>10</sup>。その背景は集団に守られつつ他者を非難する日本の村八分の現象に求めていると説かれている<sup>11</sup>。反対にこのような現象は人にどう言われようが思われようが気には留めることなく、わが道を行く中国人にとっては全く理解に苦しいことであるが、日本社会では紛れもない事実である。因って、上掲した日本人の高校生は学校の勉強の中で「人と仲良く付き合えること」が一番大事であるとの回答については首肯されることであろう。

日本語における「人付き合いの良い人、親しみやすい人」という対人評価語はそのマイナス性向語彙が6語しかなく、しかも下記のように表現としても多様性に欠いている。

- ①狡猾く丸い（人）：八方美人、昔気質、八方美人の人。
- ②そそかしく恰好を付ける（人）：少し薄っぺらな感じをする人、外見上得をする、お調子者。

とあるように、日本語では中国語と違い、「度を過ぎた交際（人）、甘言で手段を弄する（人）、媚びて機嫌を取る（人）」等のようなマイナス評価語は見られず、「人付き合いの良い人」及び行為に対してのプラス的な評価という特質が浮び上っている。

次に、プラス評価語について分析を行い、日本人の「人付き合いの良い人、親しみやすい人」に対してどのように評価されているのか、検討する。その上理想的な「人付き合いの良い人」の人物像を併せて探ってみたい。

- ①人気があって人付き合いに長ける（人）：社交的、人気者、社交家、顔が広い、交際上手、人付き合いの良い人、社交的な人、あたりがいい、あたりの良い人、にくめない人、愛想良し、交際

上手な人、人当たりのよい人、雰囲気イケメン、人の考えを重んじる人、社交性がある、外交的、顔が広い人、友達、愛嬌がよい、交友範囲が広い人、顔の広い人、協調性、協調性のある。

- ②品格高尚、人間味のある（人）：いい人、良い人、人がいい、心優しく信頼できる人、いい奴、人徳者、情深い人、良心的な人、情が厚い、人柄がいい人、人格者、育ちの良い人、物事に率先してする人。
- ③明るく面白い（人）：明るい、朗らか、爽快、オープン、外向、明るい人、ユーモラスな人、活発、快活、楽しい人、明るく優しい人、大らか、根が明るい、面白い人、明朗、陽気、一緒に楽しい人。
- ④優しく親しみやすい（人）：フレンドリー、人なつっこい、好人物、優しい人、話しやすい人、気さく、好感の持てる人、優しい、人あたりが良い、親切、取っつきやすい、友好的、愛嬌（の）がある人、ノリのいい人、気安い、気安い人、人間がまるい、心安い、円満、反応してくれる、感じのいい人、気さくな人。
- ⑤素直で寛容な心のある（人）：心が広い人、自由闊達、ざっくばらん、フランク。

右の分類によって日本人の目から見る「人付き合いの良い人、親しみやすい人」は中国人と同じく「人気があって人付き合いに長ける（人）」「品格高尚、人間味のある（人）」という特徴の他には「性格の明るい、優しく親切、協調性のある、心の広い」などのような特質も確認でき、中国人より積極的で肯定的に評価されている。日本人の「人付き合いの良い人」に対してのプラス評価は以下のように抽象化できよう。

人付き合いに長け+品格高尚+優しく親しみやすい+素直で明るい

換言すれば、これは日本人の憧れている「人付き合いの良い人、親しみやすい人」の理想像でもあると言ってよからう。中国人と比しては、「話し上手、世才があって、活躍的である（人）」という特徴は見られなかった。それに対して、中国人にとっては「人付き合いの良い人、親しみやすい人」になるには「能弁、話の上手い」ことが必要で且つ不可欠な条件である。一方、日本人は「言霊」という俗信もあって昔ながら「話す」という言語行為についての



評価が消極的であり、ダブー視さえされてきたため<sup>12</sup>、「人付き合いの良い人、親しみやすい人」に対して「能弁、話の上手い」というようなプラス評価を施さなかったのは決して不思議なことではなかろう。従って、日本語の「人付き合いの良い人、親しみやすい人」に対しての評価語には中国語のような「公关小姐（風俗業等で働く女性）、公关先生（男性の広報や接待等の担当者）、公关师（広報や接待等の担当者）、外交家（外交官）、外交官、谈判专家（交渉のプロ）」など、いずれも「話上手」を特徴とする比喩的な性向語彙も創出されるはずがない。対して、日本人が「人付き合いの良い人、親しみやすい人」についての評価においては人との協調性、協力することを重んじるという傾向が際立ち、集団意識の強い民族性が浮上している。また、上述したように中国語では新語を活用して対人評価を行っているが、日本語では「フレンドリー、オープン、ユーモラス、フランク」等のような外来語を駆動しながら「人付き合いの良い人、親しみやすい人」を評価している。両国語の性向語彙の構成においても相違点が表れている。

#### IV. 終わりに

以上、考察を通じて「人付き合いのよい人、親しみやすい人」またはその行為はプラス評価、表彰に値するものであり、中国語と比べて、日本語の方が一層顕著であることが明らかになる。つまり、日本人の目から見れば、「人付き合いのよい人、親しみやすい人」は評価すべき人であり、中国人のような「過剰価値」というマイナス的な評価には当たらない。一方、中国人は日本人と異なり、「人付き合いのよい人、親しみやすい人」についての評価において明らかに正負、褒貶という両面性が顕在している。いわば、人との付き合いは過不足なく適度に行えば、評価、奨励に値するが、必要以上に施すと逆効果になり貶したり、咎めたりする対象となる。このような差異は上述したように日本社会に根付いている強烈な集団意識に一因を求めることができるのではないかと考えられる。

付記：本稿は2017年国家社会科学基金項目「日中韓語中的“表人比喻”詞彙対比研究」（17BYY219）、蘇州大学校委託項目及び欒竹

民平成29年度広島市立大学特定研究費による研究成果の一部である。

#### 注

- 1 施暉・欒竹民2017『中日韓“性向語彙”及文化比較研究（中日韓三国語における「性向語彙」及び文化についての対照研究）』（外語教学与研究出版社）
- 2 金田一春彦2002『ホンモノの日本語を話していますか』（角川書店）、芳賀綏2004『日本人らしさの構造』（大修館書店）等
- 3 服部雄一2005『ひきこもりと家族トラウマ』174頁、NHK出版
- 4 プラス、マイナス及びニュートラルという評価分類に際して日中両国のそれぞれ20名母語話者（大学生10名、社会人10名、男女各10名）を対象に、プラス、マイナス及びニュートラルをそれぞれ「思う」、「どちらかと言えば思う」、「思わない」と分けて、アンケート調査と面接調査を行った。
- 5 室山敏昭2001『ヨコ社会の構造と意味－方言性向語彙に見る－』50頁、和泉書院
- 6 施暉・欒竹民2017『国文学攷』第233号、2009、2014、2016『中国学研究論集』第23、33、34号、2015『広島国際研究』第21巻等
- 7 「そのバランス指向とは、誰もが協働できる＜平準的な労働＞を地域社会における労働秩序の規範（指向価値）として位置づけ、それから逸脱する＜過小価値＞と＜過剰価値＞を設定し、それをとともに否定することによって、地域社会の成員に共通して課せられる＜指向価値＞を鮮明に焦点化し、そこへ収斂するという、実に巧みなメカニズムである」。（室山敏昭2001『「ヨコ」社会の構造と意味－方言性向語彙に見る－』62頁、和泉書院）
- 8 「性向語彙がプラス評価対マイナス評価という二極対立構造を基軸とするといっても、それは均質的に張り合う単純な二極対立の関係構造を示すものではなく、負の方向への著しく傾斜した＜負性の原理＞を示すものである」。（室山敏昭2001『「ヨコ」社会の構造と意味－方言性向語彙に見る－』36頁、和泉書院）
- 9 精神科医の町沢静夫によって名付けられた。（『学校、生徒、教師のための心の健康ひろば』34頁、駿河台出版社、2002）。

- 10 2009年7月6日に朝日新聞が夕刊一面で社会現象として取り上げ、続いて翌日の「めざましテレビ」「情報プレゼンター とくダネ!」といった情報番組でも紹介された。
- 11 同注5
- 12 金田一春彦1992『日本人の言語表現』講談社新書、渡部昇一1996『日本語の心』講談社新書等

## 参考文献

- 荒木博之、1973『日本人の行動様式』講談社
- 井上忠司、2006『「世間体」の構造-社会心理史への試み』講談社
- 張岱年・方克立、1994『中国文化概論』北京師範大学出版社
- 築島謙三、2000『「日本人論」の中の日本人』（上、下）講談社
- 中根千枝、1967『「タテ」社会の人間関係-単一社会の理論』講談社
- 芳賀綏、2004『日本人らしさの構造』大修館書店
- 濱口恵俊、1980『集団主義 日本らしさの原点』至文堂
- 広瀬幸生・長谷川葉子、2010『日本語から見た日本人』開拓社
- 文崇一・蕭新煌、2006『中国人：観念与行為』江蘇教育出版社
- 松本一男、1987『中国人と日本人』サイマル出版社
- 南博、1994『日本人論-明治から今日まで』岩波書店
- 室山敏昭、「方言性向語彙の研究-回顧と展望-」平成11年度広島大学国語国文化秋季研究集会における口頭発表資料
- 室山敏昭、2004『文化言語学序説-世界観と環境-』和泉書院
- 室山敏昭、2012『日本人の想像力』和泉書院
- 林語堂著 鋤柄治郎訳、1999『中国=文化と思想』講談社